

昭和 53 年 1 月 14 日(土)

入小屋<OB12 期 岡戸・清野(岡戸友人)>

昭和 53 年 1 月 15 日(日)

立寄<OB14 期 鈴木道夫、OB15 期 加納康樹>

20 数回目の山小屋。但し 3 年ぶり。何故来なかったかと言うと、第 1 は卒業した事と、結婚させられてしまった事が大きいのだ。結婚する前は、誰も居ない時を見計らって、カーチャンを連れてきたけど、結婚したら来る必要が無くなった。サテンに行く事も無くなったようだ。

今度ガキが生まれるというので、下見に来てみたが、未だ耐えられる様なので、若い女の子を連れてこようと思う。

山小屋が出来て 10 年目になろうとしている。あの時、丁度 1 年生だった私メにとって、山小屋は大きな思い出である。初めは、屋根の張り合わせがうまくいなくて、床に雪が降り積もっていた事もありました。冬は寒いのでなるだけ岡田さんの所へ泊めて貰っていたけど、やっぱり冬は寒いや。2 日が限度。年を取りましたナー。

ガキが出来るなんて、変な気持だけど、9 月まで浮気出来るので、内心喜んだりして…。だけど、9 月からは生地獄が待っているのです。女の子が産まれた時の名前を考えたんだけど、間違っても、ワンゲルに居た女の子の名前は付けるの止めようと思う。

泡踊子(トルコ)、男女子(ハメコ)、万子(イズコ)、熱貝子(キムコ)

男が出来たら 椎の平工 字正。と書いていたら鈴木と加納が来た。

OB12 期 岡戸

加納と二人で来ました。<持ってきたもの>スノーボード、毛布、ハリケーンランプ 2 ヶ、長靴。前回の宿泊費 1000 円置いておきます。彼女の怪我は脱臼だけでした。

OB14 期 鈴木

清野 (12 期オカド氏の連れ)

私事。初めて小屋を利用させて戴きました。山小屋を利用することになった動機は前ページの作者 岡戸さんと、会社の職場が同じという縁からです。たまたま、本当に些細なことで行こか、という事になり、行動に移りました。

山小屋の感想

H₂O が大切なアーとつくづく感じました。それに自分の手を動かして何もかもやらねばいけない。即ち、

行動しなければいけないという教訓を得た気がします。

スキーが好きで好きで、でも、ここのゲレンデ、もう飽きた。2 月に準指検定受検します。必ずや合格し、合格の暁には岡戸さんから 1200 円半日レッスン料取るのが…ウッシッシ。それからもう一つ、15 日スキーから帰ったら、鈴木道夫さんという方が、俺の大切な毛糸の帽子持って帰ってしまった。それに気が付き、お母さん じゃなく岡戸さん、僕のあのポーシ どこへいったのでしょー、悲しかった。あの毛糸のポーシ、僕のいとしい愛しい玲子ちゃんの形見なのだ。たった一つの、彼女からのプレゼントなのだからして、返してタモレなもし、鈴木氏ヨー、タノムデー、ホンマによろしく！返してくれなかったら、新潟へ取りに行くから覚悟しとけ！わし、ヒマヤでー、よろしくお願いします。気が付いた人、連絡してください。

昭和 53 年 1 月 16 日(月)

岡戸

お世話になりました。又来ます。今年は何と 2 回は来るつもりです。 1/16 AM 9:30

OB12 期 岡戸

昭和 53 年 2 月 11 日(土)

入小屋<OB14 期 小口・井上(友人)・岩永(友人)>

建国記念日 諏訪 7:30—長野—11:10 妙高高原—14:00 杉野沢—(スキー 1hr)—17:00 小屋

連休と言うので職場の同僚とやって来ました。岡田さんの所に寄ったら誰も入っていないとのこと、ちょっと残念。それに岡田さんから雪下ろしをしておかないと小屋が危ないヨ なんて又言われ、ヤレヤレといったところ。

小屋は 8 月以来、このところは年に 2 回ぐらいのペースのようだ。8 月の時は妙高にも登れたし、今回は 2、3 日前に急に話が決まってやって来た。

今回一緒に来た人

■井上氏 (26 才) 諏訪保健所勤務、環境衛生、特に浄化槽関係を担当、この小屋にも そういう方面から意見がかなりある様子。この頃、山とか旅とか、一緒に行く事が大変多い。この小屋も 2 回目、先日妹が結婚、本人もそろそろ気を入れて嫁さんを捜し始めた？ 理想の女性は気だてのいい人 などと言っています。諏訪に来たときは寄って下さい。

井上氏 02665-3-6000 内262

■岩永氏 (28 才) 諏訪湖工事事務所、土木屋さん。下水道関係の仕事。九州男児。山が好きで長野県に勤めている。将来は穂高あたりの基地として豊科付近に

住み着く予定。スキーが実にうまい。やはり奥さん募集中。

閑話休題

僕も今回はスキー靴と長いスキーで来ています。小屋では初めて。腕前の方はまだもう一步といったところ。

小屋の階段には感心しています。15期の牛窪君等は階段から落ちる心配がなくて特に喜んでいるのでは。

(あれは階段からではなかったか)

今夜はすごく暖かい。ストーブもあるし、諏訪に居るよりよっぽど快適、外は曇っています。明日は妙高山を見たいところ。

(OB14キ 小口)

昭和53年2月12日(日)

出小屋<OB14期 小口・井上(友人)・岩永(友人)>
曇り時々晴

今日は池の峰まで行って来た。歩きやすいし、スキーにも良い。

小屋の雪下ろし大分やったけど、まだ心残り。

そろそろ帰ります。又来ます。やっぱり山も小屋も良い。小屋には思い出がどんどん増えていきます。

(11:30am OB14th 小口)

昭和53年3月4日(土)

入小屋<4年18期 鈴木栄・渡部外>
(雨 and 雪)

春休みのトップを切って、今日来ました。小屋全体がスッポリと雪に覆われていて、小山の如きであります。一応入口を掘り出し階段を付けました。明日は窓の所の雪をどけて、少し小屋の内を明るくしようと思っています。

栄と二人切りです。栄はもう鼾を掻いて寝ています。僕もソロソロ寝ようかな。

(4年旧18期 ワタベ)

※実に静かです、ストーブの音と、時々屋根の雪が落ちるらしき音以外は何も聞こえない。ブタンガスが無くってローソクだけじゃちょっと暗いですネ。本当に小屋が潰れそうな位に雪を被っている。何とかもう2,3日もってくれたら、元気な現役の皆さんが大勢来るでしょう。

今、栄君が目覚まし「何だか社会人になるのが淋しくなってきた」等と言っております。明日にでも、多分小口さんの持ってきてくれたウイスキーでも飲もう。今日はちょっと疲れていて、酒も飲みたくない気持です。

二人とも時計を持っていないので、全く時が判らない。もう寝るつもりが、何だかんだと遂に酒盛りになってしまった。多分小口さんの残していったOldでしょう。有難く戴きます。ついでにツマミの類も残っているので嬉しくなりました。今、「卒業オメデトウ!」で乾杯をしたところです。しかし、静かなのも良いですが二人きりじゃ(しかも相手が男)ちょっと淋しい気持です。せめて後二人居れば楽しいゲームが出来るのに。早く来い来い後二人。小屋で酒など飲むのも、これで何回目か分からないくらいだが、このオンザスノーの味は、銀座あたりで飲むよりも気分が良いのではないのでしょうか。(銀座なんかで飲んだこと無いけど…)

本当は昨日、16期の植松さんと来る予定が、植松さん、修士論文が未だ出来ていないので1人で来てしまった。栄君が居なかったら、随分怖い思いをしたでしょう。ローソクが後一本しかない。早く飲んで寝よう。でも飲み出すと切りのない人間が二人で飲んで居るんだからどうなるやら…。

3/4 4年元18期 ワタベ(深夜)

昭和53年3月5日(日)

小雪(ガス)

何時に起きたか分かりません。時計がないから。お昼近かったと思います。栄君は寒くて三度、目が覚めたそうですが、僕はよく眠れました。

古雑誌を全部読んでしまった。いい加減になったところで、外に出て窓の所を掘りました。大変頑張って2m以上は掘ったのです。やっと片方の窓を掘り出し、もう片方を掘っているとき異様な音がしたのです。ミシ、ミシ…ヤバイと思ったので、慌てて逃げ出した途端に、屋根の雪が殆ど崩れ落ちて、せつかく掘ったのに、みんな埋まってしまったのです。でも、怪我もなかったし、片方だけだけど、すこしだけ光が入って、小屋もちょっぴり明るくなりました。今後、この作業をする人も気を付けた方がいいですよ。

夜はやっぱり酒盛りになってしまった。昨日のウイスキーもあるけど、今日は僕が持ってきた日本酒を熱燗で飲んでいます。明日は誰か入ってくるらしい。どうか二人以上でありますように。暇でヒマで。尤も未だ全然スキーをしていませんが。明日は少しだけやってみましょう。ワタベ

※スキー場のアナウンスで時間がやっと判明し、柱時計を合わせた。

※長くなってすみません。昨夜は二人で長々歌を歌って大騒ぎでしたが、今夜はもう歌も出ません。No1の頃の日誌はどうしたんでしょうね。ところで、日誌の記名は正確にした方が良いでしょう。イニシャルだけでは誰だか判らないのです。その人の個性(知って

いる人なら)と併せて読むと、すっごくおかしかったりするのです。

明日あたり赤倉に行こうと考えています。
予定(8:00 小屋出発-12:00 山頂-2:00 小屋)
ブタンガスが無くて、暗い小屋です。それも何か気分が出て良いものですが、男二人じゃ気分も出ないものですし。僕もどうにか卒業できるらしいし、栄君もそうです。共にもう長期滞在は出来ないようです。今回は、帰れと言われるまで居てみようなんて考えたりして…すぐに「帰れ」って言われたら、俺どうしよう。でも居るもんね。今回で13回目デス。

4年前18期 ワタベ(深夜)

※尚栄君も前18期デス ※ちょっと酔っていたので乱筆乱文になりすみません。(後日記) 渡部(18)

昭和53年3月6日(月)

入小屋<2年20th 作山栄一>

今日は素晴らしい気持ちでした。寒くて7時頃目が覚めました。見渡す限りの青空と、白く凍った立木の乱立が素晴らしく、赤倉行きを決心しました。それからご飯を炊いておにぎり作って、スキー、シール、ワカン etc の準備。やっと9時過ぎに出発。当方、時計を所持しておりませんので詳しい時間は判りませんが、赤倉山頂でお茶を沸かして飲んで、ゆっくりバージンスノーを楽しみながら下り、サンアントンでビールを飲んで小屋に帰ったのが3時でした。本当に良い天気で、三田原・妙高はもとより、黒姫・戸隠・北ア・上越 全てをたっぷり堪能できました。尚、今回小屋にあったジャヌーのスキーと植松さんのワカン(山頂直下までスキーで行けたので使用せず)、白川君のサブザック、作山君のジャンパーをお借りしました。末筆ながら感謝の意を表し、お礼に変えさせて戴きます。

4年前18期 ワタベ(深夜)

(※追伸 誰1人として会いませんでしたが、うさぎさんに逢いました)

3/5、23:58 妙高5号で入山小屋。この日は朝の10時から meeting、審査会、執行部会と17:00 近くまでかかった。それにもめげず、唯ひたすら都会の喧噪から逃れ、静かな山小屋に憧れて1人に入った。

小屋には渡部さんと栄さんが先に来ていた。小屋は予想通り雪の中に埋まっていて、屋根の先端が1~2m 出ているのみ。今にも落ちそうな、厚い雪の積もった屋根の下をくぐり小屋の中に入る。薄暗いけど本当に落ち着ける。昨夜寝てないせいもあって、13:00 頃まで小屋でウダウダとしていた。13:00 から余りにも天気が良いので、ちょっと試しに滑りに行く。今年の初滑りである。朝はクラストしていて、ちょっとアイス

バーン気味だったが、陽差しの為に、午後からはややザラメ状になっていた。まあまあの雪質だった。明日もこの調子なら1日券で滑るつもり。広進も明日来るし、1年も入る。小屋も少し賑やかになるかなあ。つくづく、小屋は少人数が良いと思う。3人は少し寂しさが漂う。かといって、10人となると、少々多いような気もしないではない。5、6人の気のあった友達で来るのが最高と思う。

いろいろ書きたいことがあるが、明日は8:00に第1リフトまで迎えに行かなければならないし、このへんで…

2年20th 作太郎作山

昭和53年3月7日(火)

入小屋<4年18期山口貢三/2年20期 古橋達行・武藤由紀雄・安武和俊> (大晴天)

今日も、昨日に負けずに良い天気でした。思わず1日券を買ってしまった。朝9時過ぎに出て、途中で昼飯(モチロン ビール付)も食べ、34回乗ってしまった。その後貢三君(18期)にその券をあげ、2回乗ったそうです。あの券も、充分使って貰って満足でしょう。

※今日、4名入りました、前記の貢三君(18期)、古橋(17)、他2名です。楽しいゲームが出来そうです。顔も十分に黒くなってヒリヒリします。昨日の日記に書き忘れましたが、赤倉の山頂に小泉さん(15期)から貰った「YKG」のオレンジ色の小旗を付けてきましたので、今度行く人があったら確認してください。尚、Y. K. G. は「ヨコハマ・キョウシヨクイン・共済会」と言うのだそうです。

(4年前18期 ワタベ)

昭和53年3月8日(水)

入小屋<2年20期 水田徹・武藤功二・加賀友規・青山功・石垣秀敏>

出小屋<4年18期鈴木栄> a.m. 1:30

元18期の鈴木栄です。3/3の夜行で入り、今日の夜行で帰るつもりです。以下、その行動の要約です。

3/4(曇のち雨のちガス、吹雪)1日券で22回滑る。アフター・スキーは雪掘り。深夜まで渡部と大コンパ大会。1973年の明星別冊の歌本を初めとして、最新刊まで唱破(読破ではない)。

3/5(ガス)午後から雪掘り。夜はまたコンパ。

3/6(快晴)作山が来る。渡部は赤倉へ。小生、午後よりスキー。夜は3人マージャン。

3/7(快晴)4名入小屋。小生、午後から二日券を買って、23回滑り、元を取る! 久々の快挙! 待ちに待った

4人マージャンを行う。

これまで何度か山小屋に来ましたが、いつもアチコチの山に登るばかりで、スキーなんぞは余りやらなかった。こうして、スキーのみの為に、小屋に4泊しても、どうも勝手が違います。もう7人も小屋に居るんで、そろそろ引き上げるつもりです。

4年 18th 鈴木栄

晴 11:00pm (2年 20期 I. A.)

今日、水田、石垣、武藤功、加賀と僕の5人で入小屋しました。電車の中でのトリスがモノを言い、小屋に入っても眠く、昼は寝てしまいました。小屋の中は今、水田を初め、アブ、加賀と、恐ろしいまでのドキチガイ歌が響き渡っています。歌とは何か？人間にとって歌とは？水田の歌に悩まされていると、そんなことを考えてしまう。やはり歌とは、人間にとって楽しいものなのでしょう。それにしても水田は12音階を持ち合わせて居らず、驚くばかりです。

明日はゆっくりスキーをしようと思っています。去年の暮れに捻挫した左足首が完治していないので、今期のスキーはまず、だめでしょう。足が嫌がっているので参ります。しかも、スキーの板も昔からのヤツでエッジが効かないのです。今年に冬は是非、新しい板を買いたいものです。

2年 20th 青山功

大晴天 **4年前 18期ワタベ**

今日も良い天気です。朝の内は薄曇りのような天気だと思っていたのに、外に出たら、見渡す限りの青と白の世界です。今日元気の良い2年生が五人入ってきたので、途端に賑やかになってしまった。明日は10人も入るらしい。井戸も掘ったし、入口も大幅に広げた。昨日頑張っ、スキーをやりすぎたので、今日は1時頃小屋を出てチロルに直行してしまいました。それから第四迄上って30分位昼寝をした。もう3時頃だったためか、ちょっと寒かったが、春ならではの気分です。

夜、マージャンで負け、×当番に紅茶を作った。今日の唯一の仕事。でも、もう半荘するつもりだから、また負けるかも？それはあり得ず！明日あたりから天気も崩れるんじゃないでしょうか。尚、前18期の栄君は、今日夜行で帰ると言っ、暗くなってから帰っていきました。

昭和 53年 3月 9日(木)

入小屋<3年 19期 磯尾典男/2年 20期 太田信幸・西田雅典・玉木慎二・増田敬子・清水恵子・小泉真弓/1年 21期 中川雅邦・渡部朋子・山中直子>

8:30am ど快晴

今朝も、起きて外に出ると、目が開けられない位。丁度小生が来てから3日が過ぎ、山小屋の生活にも慣れてきってしまった。スキーで1日券、2日券と、根性で<お金で買ったのではないですか？>買いすぎた為、膝が痛い。昨晩は玄関を広げ、井戸も掘り、屋根の雪も一部下ろしたし、後は何もする事がない。今、武藤と石垣が降りてきた。昨夜遅くまで起きていたため、未だみんな寝ている。ア、加賀が居ない。あいつ、ガッツ出して、今日入ってくる女子を迎えに行きたみたい。マハ、ガンバリますね。僕にはそのガッツがない。朝飯を作ったけどおかずが無い。全て昨夜食ってしまったのだ。どうすべえー。まあ、いいか、飯でも炊くべえー。「おかずは？」と石垣に聞かれて「ラーメンにしよう」と石垣が答えた。ラーメンオジヤライスか。まあ、いいでしょう。武藤が「作んべえよ。」と叫ぶ、しかし水が無い。「来た奴に水を汲みに行かせよう」。全員一致した。従って今のところ朝飯抜き。早く西田らが入ることを期待。小屋の中は騒然としている。無理もない。2年男子9名、4年男子2名、誰も仕事をしようとはしない。余りにも汚い。女子が片付ける事を期待して。

2年 20th 作太郎

9:00am 本日の入山等一陣が到着。 9:30am 全員到着。どっとうるさくなる。アア、静かな小屋は失われた。

2年 20th 作山

9:45am

磯尾さん、太田、小泉、玉木、中川、山中、増田、清水、渡部(ワタベ)、西田が入小屋する。男ばかり小屋に入ってた為か、小屋はぼっちく、食料も無い。我々に食物を催促する程で、全く飢えている。

2年 20th M. N. 西田

(※食料を持たずに小屋に来る方が×印であって、我々が飢えていた訳でもないし、小屋もキッチンとしていたぞ！！…先発隊)

4年前 18期ワタベ

今日もまずまずの天気、明日は確定的に崩れるでしょう。スキーツアーの偵察の皆様は御苦労な事です。僕は明日のお昼頃帰ろうと思います。実家に帰るのでまた雪下ろし等せねばならないかもしれません。今日、買い出しに行った(僕も行った)ので、久々に豪華な夕飯で満足しています。

※アルバムを持ってきました。未だページが残っているので、何か写真を持ち寄って増やしてください。

1週間近く利用させてもらい、顔も十分に焼け、楽しい毎日でした。又暇が出来たら来たいのでよろしく。しかし、社会人になると暫く来れそうもありませんが

…。

昭和 53 年 3 月 10 日(金)

入小屋<2年20期田本敦子/1年21期 山室晴美・白井真理子・山田・白木政隆・岩見紀良・岩崎泰夫・山崎俊夫・山本規雄>

出小屋<4年18期 渡部>

外は一応明るいのですが、昨夜からの雪が随分積もって居るようです。数名がラッセルに行っていますが、未だ帰ってきません。今日20名くらい入小屋し、合宿が始まるのだそうですが、天気が崩れています。

とにかく僕は、ご飯でも食べたら帰ろうと思っています。長らく利用させてもらって有り難うございました。この小屋とも、YWVの皆さんとも、しばらくお別れです。さようなら

(4年前18期 ワタベ)

今日は朝から雪が降っています。金曜日と言うこともあって、リフトは営業中止です。13:30 2年生約8名は、20名を出迎えに行き、僕は約5名と共に小屋に残っています。その間、窓の明かり取り終え、コタツに入ってこれを書いています。明朝帰ろうと思います。さんざんはしゃいだので、これで学生生活に見切りを付けても惜しくありません。今日は1日中、小屋でゴロゴロします。

※14:30 先発(白木)到着。下は雨。全員ずぶ濡れ。小屋の中が狭くなった。

(つづき) 3/6の夜18期の6人が集まって飲んだあげく、今YWVで流行しているボーリングをした。久しぶりで楽しく過ごし、4時間ほど寝て、3/7朝、妙高1号で入小屋しました。3/9迄は晴れていたのと思う存分滑りを楽しみました。去年の12月は転倒して2週間ほどムチウチに苦しみましたので、今回は少々控えめに滑りました。今日は結局、明かり取りをした時を除き、ずっとコタツにつかっています。明日は又妙高1号で横浜に帰り、卒論を提出しようと思っています。植草、壺井も3/11頃羽田に到着するでしょう。それにしても工学部に入ってつくづく思った。経済学部に入るべきだった…と。

今日から合宿です。小屋も40人近く入り、賑やかです。3/9に女の子が入って以来、おいしいご飯も食べさせて貰ったし、夜はマージャンして夜食をコソソリ食べ、おかげで快適な山小屋生活を送ることが出来ました。苗名小屋も若干配置が変わったので、見取り図の改訂版を書いて、僕のささやかな卒業記念にします。

(4年18期 山口)

昭和 53 年 3 月 11 日(土)

出小屋<4年18期 山口貢> 雪

現役の人達は、溝畑君を除き全員歩行訓練に出掛けた。昨日降った雪は20cmほどに積もり、せっかくの明かり取りも無駄になってしまった様だ。今8:20ですが、9:20には出て、9:55のバスに乗り妙高1号で帰ります。スキーツアーの日には晴れることを祈り、そして現役の皆さんが、楽しく且つ無事、何事もなく合宿を終える事を祈ってます。(少々オーバー) 今度はいつ来るか判りませんが、きっと又いつかここにおじゃまします。ではさようなら

(4年18期 山口貢三)

今日は、朝から雪。その中で雪上遭対合をやった。午後はスノーボードと、楽しい楽しい、そして楽しい雪下ろし。大物ばかりの雪落とし、みんなでみんなでやったっけ。現在、こたつで高級煙草 七星 を吸いながら書く山小屋日誌。昨夜は雨から雪に変わり、風も強かった。その為か、樹氷(実際は雪氷)が綺麗です。

キスマーシャインリップを折ってしまった。西田が折った。必ず買って返す(おまけを付けて) 予定(は未定)。

3/11(土) P.M. 9:05 現在。人間配置図。書く人 加賀、考えた人及協力 水田 (図 省略)

こたつA(トランプをする集団)<山崎・藤倉・カゴ・山本・村松・鳥井・椋代・渡部・白木・安*・岡本(寝ている)・岩見・岩崎・武藤(寝ている)・*田>

こたつB(歌を2時間歌っても飽きない集団)<太田・玉木・磯尾・武藤(寝ている)・田本・青山・板欽・作山・清水・小泉・下村>

ストーブA(井戸端会議に花を咲かす人の集団)<石垣・山中・山室・白井・増田>

ストーブB<中川・溝畑>

階段下<水田・**・横溝>

便所(磯尾と中島が唸っている)

2階(ギター)<西田・古橋>

9:20pm

この小屋には19期が磯尾さんしか居ません。掘りごたつを占領しているのも20thばかりです。これを見てつくづく20期の代になったなあ実感しています。

2年20th 加賀

9:20:30" 今、階段に寝転んでいると、様々な雑音が聞こえる。隣では男二人(岩崎、岩見)が”ナショナルリズム云々…”などと語り、階段下の炬燵では相変わらず歌声。その向こうに白井の悲鳴。山中の笑い声、白木のわめき声。端のストーブで中川と溝畑がなにや

ら訳の分からないことを…あつ、作太郎の声も聞こえる。清水の笑いが途絶えているな。君達、外の世界はどうなっているか知っているかい。今日降った雪は静かに眠り、星が輝いているぜ。明日は張れなんだぞ。何のわだかまりもなく、一つの屋根の下に 38 人の人間が生きている。こんな瞬間なんて他にない。生まれてきて多くの人生を選択できる自分たちが、この瞬間をここに捧げる。ここを選択した。自分の選んだ瞬間を真剣に生きることが大事だ。「もし…だったら」なんて言うのは馬鹿なことであると思う。この春休みも終われば進級する。一人一人の心にいろんな気持ちが渦巻いている。今日で何かに別れを告げ、そして明日から全てが始まる。夜の重圧が、そして小屋が、そんなことを思わせる。38の魂が宿る山小屋。明日に生きる何かを感じさせる山小屋、ワンゲルのみんなの目は輝いている。

2年 20th TM.

これから数日後には津軽 pw に行く。まるで旅行みたいな pw だ。何故こんな pw に行くかと言うと、これからは、こんな活動がすごく wゲルには必要だと思ったからです。山に行くだけがwゲルじゃない！しかし、本当に field work を広げようと清水が言い出したことを理解している人が、執行部に何人居るか、すごく不安な気がします。

2年 20th 加賀

いったい人間のつながりと言うのは何だろう。血のつながりが信じられるか？現在、農村定住時代の日本が崩れて、都会又は東京志向の日本全体の人間は、浮草になっている。そんな中で、たとえ錯覚でも、こんなwゲルの人間関係が好きです。

2年 20th 加賀

”白銀の日々”を山小屋委員で出したけれど、まだまだ書き足りないことは沢山目に付く。でも、一番重要なことは、一人一人がみんなのために、こうすれば楽しくなる、快適になると言うことを、進んでやろうという気持なのではないか。

2年 20th 山小屋委員長 水田徹

昭和 53 年 3 月 12 日(日)

入小屋<3年 19期 中島輝夫・熊沢智子>

昭和 53 年 3 月 13 日(月)

5:40am 今、偵察隊が朝食をとっていて、私達4人は、炬燵の中で暖まっています。(「中」に注意せよ。井上晃(19)と海野和明(19)と渡部朋子(21)と椋代節子

(21)の4人なのだ)
出小屋<岩崎泰夫>

昭和 53 年 3 月 14 日(火)

出小屋<1年 21期 白木政隆>

今日はスキーツアーから帰ってきました。1年振りの笹ヶ峰は全く別の様相で迎えてくれました。でも、変わり様の無かったのは、雪の白さとまばらな樹林のコントラスト。

思えば去年のツアーは僕らが主催したツアー、今年は又それを引き継いでくれた2年生が懸命に、ツアーを成功させようとしてくれました。もう、あれから1年も経ってしまった事を思うと、時の早さをつくづく感じてしまいます。今の自分に、何が残っているかと問われても明快な答えは与えられません。でも、こうして立場の違った位置にある自分が不思議に思われます。去年はあんなに不安だった2年生も、見違えるほどに成長してくれました。こうして、彼等の手伝いをしていると、何となく嬉しさがこみ上げてきます。

自分の居場所が段々狭くなっていく淋しさと、後輩たちの成長に対する嬉しさが交錯して、複雑な気分で小屋にいます。これから、短い1年の学生生活をどう過ごそうかと思いついて悩んでいます。何となく落ち着いて、不釣り合いな自分が居ても全然気まずくない、安住の地がこの小屋です。

いろいろな人間が混在しているのに、全く感じさせない、このクラブ、僕を思いっきり甘えさせてくれるけど、ある一瞬、突然突き放されるような……。

明日またツアーに行きます。晴れるといいな。

3年 19期 TN (中島輝夫)

昭和 53 年 3 月 15 日(水)

出小屋<1年 21期渡部朋子>

(清水恵子)

ただいま 7:30am. 昨日スキーツアーに行ったメンバーと植松さんが、コタツに入って、トーストと紅茶の朝食を取り終わりました。

後発隊は、今どの辺でしょうか。良い天気になればいいのですけど…。3回も続けてスキーツアーに行ってくれた人。ホントにご苦労様です。疲れているのはみんな同じなのに、朝は毎日早いし、夜は鬼のような忙しさ。同じ執行部員なのに、こんなにも違う。合宿を成功させるため、スキーツアーを成功させる為、一生懸命働いてくれた…自分には何も出来ないということを感じさせられました。でも、何かしなくちゃいけない。それは判っている積もりです。磯尾さん、中島さ

ん、我々のために。ホントーに有り難うございます。
感謝感激です。

私は明日、明後日、東北に行ってきます。自分が主催したくせに、考えがまとまっていない。9人もの大所帯でどうなるのでしょうか。多すぎるという気もしますが、pwに付いてくれた事は感謝しています。私の掲げた目的のことを、考えては貰いたいことは望むのですが、何よりも、自分の中に、何か残るものを得て来て欲しい。それには少し短いような気もするけど・・・。”里と山、何処を歩いても同じじゃないか”等と言ってはみるものの、またまたいろんな疑問が押し寄せてくる。今度のpwで、自分の考えをもう一度、考え直し、是非ともまとまったものにしていきたい。

2年20期 K.S.清水恵子

(増田敬子)

たった今、彼女がノートを書き終わり、私メが書いています。昨日のスキーツアーはラッキーでした。行きは天気も思わしくなく緊張しましたが、笹ヶ峰は、風こそ強かったけれど、次第に暖かくなり、思い切り雪合戦などをして楽しみました。しかし、同じ2年生として、リーダー、サブリーダーの苦労には本当に頭が下がります。私は2度目なのですが、結局何の役にも立てませんでした。ツアー中、1年生に”来年の偵察のためにしっかり覚えておけヨ”と言いながら、熱心に地形を説明している姿に情熱を感じ、頼もしく思いました。来年はスキーツアーが行われるかどうか判りません。21期は、全面的に賛成していないと言う話も聞きました。だけど、安全面は十分注意して、山小屋の伝統として続けて行って欲しい気もしています。

今回小屋に7日目、こんなに長く居るのは初めてです。今まで合宿にのみ参加していたので、物足りなかったけれど…。小屋は実にイイ。多くの人々がごった返してはいるけれど、何となく違和感がありません。ワンゲル特有の雰囲気なののでしょうか。自分に甘えてしまいそうで、怖いときがあります。執行部学年として、自分にだけは甘えたくないと思っています。どのくらい協力できるか判りませんが、自分に出来ることは全力でぶつかりたいと思います。

ワンゲル内の新しいフィールド。どうやってみんなに判って貰えばいいのか、まるで見当が付きかず。今回の東北pwは、絶対に成功させよう。それが第一歩のような気がして。決して山に行きたくないのではないけれど…。新しい何かを求めてさまよいたいと思います。夏には、その一つのまとめとして、沖縄に行きたいと思います。違った方向性が開拓されればいいけれど…。

忙しさの中にこの1年が終わってしまいそうです。その中で自分に何を残すか。これからの私自身にかかっています。

2年20期 K.M. 増田敬子

昭和53年3月16日(木)

出小屋<1年21期 山崎俊夫>

P.M. 2:45

昨日はスキーツアー(後発隊)に行ったためか、今日は疲れ気味で、朝からコタツの中でグタグタしております。本当は今日横浜に帰って、明日から家庭教師に行くはずでしたが…。でも1日くらいゆっくりと過ごそうと思います。

午前中に1年の鳥井・村松なんかは帰り、今小屋に居るのは僕と山田で、残りの1年(4人程度)は、未だ元気に滑っています。

3/15の山小屋日記の中に”21期がスキーツアーを全面的には賛成していない”事を読みましたが、同じ21期である僕は、スキーツアーのみならず、むしろ来年執るであろう21期の執行部の消極的さみたいなものが感じられてなりません。確かに今の21期は山行技術とか経験というものが低いと、それで何をどうしたらよいか判らずに、1年生という位に甘えて、消極的にならざるを得ないかもしれないけれど、そんな低レベルの集団でも、一人一人が少しでも進歩したなら、全体から見れば大きな進歩になるはずだと思います。

僕達は21期。21というのは大変なものだと思います。伝統は大切にしたいものです。

1年21期 Y.K. 箆橋

3:10pm

まだ僕と山田が居ます。二人とも何か疲れと飢えで、とても人間とは思えない姿です。山田の方は明日から東北pwで、僕も明日、小屋を出ようと思っています。実際、妙高まで来たなら、そのまま家へ帰りたいのですが…。

1年21期 Y.K. 箆橋

(中島輝夫) 10:50pm

今日で小屋に泊まるのも最後です。皆、三々五々、ミーティングに雑談、pwの準備、せわしく動き回る人達を傍観者的に過ごしてきました。今年のスキーは、バイトと旅行の合間を縫ってやってきた、せわしい小屋生活、2ヶ月ぶりの小屋なのに冬とは全く違った装いをして、1年振りくらいの感じがしました。あっという間に過ぎ去った1週間(6日間)、予定を1日延ばして明日帰ります。

何とせわしく過ぎてしまった事か、でも今回はツアーが主目的で来たのだから、2回も行かせて貰って大満足でした。自分のラッセルした道が新雪の中に続いていくのは、何とも言えない気分です。今回の小屋生活、

もう少し居たいなあと、後ろ髪を引かれる頃に帰るのがいいと思います。

12日 14:00着 7回

13日 1日券 17回

14日 スキーツアー参加

15日 スキーツアー参加

16日 1日券 21回

17日 妙高2号

今まで経験していない小屋生活 ・独りで過ごす ・秋の小屋

学生のうちに、この二つを経験するために、またやっ
て来ます。

3年19期 中島

深夜独白

情熱—これが生きているすべてだ。

緊張—これが生きている糧だ。

この2つには、目に見えない激しさがある。心の底を
えぐる激しさがある。

この2つの瞬間は最大の苦しみなんだ。しかし、それ
が人間の最も美しい姿だなんて皮肉だ。

苦しみの瞬間は苦しみしかない。

自分で美しいと言い切れる瞬間は美しくない。

人間って不思議ではないか。

1978 2年20th T.M.水田

昭和53年3月17日(金)

出小屋<3年19期 中島輝夫・熊沢智子・磯尾/2年
20期 作山・武藤由・安武・加賀・青山功・太田・
玉木・増田・清水・小泉・田本敦子/1年21期 中川・
山中・白井真理子・山田・岩崎泰夫・山本規雄・山
室晴美・椋代節子>

10:25AM

みんなが去った後の山小屋は、少し淋しいけれど、や
はりいいもので、男4人がする麻雀の牌の音と、スト
ープに燃えさかる音だけが、耳に飛び込んできます。
こんな、雪に埋もれた山小屋にいと、時の流れが、
一時 止まったような錯覚に陥り、心がスーと落ち着
いてきます。

2年20th 水田TM

春小屋もあと二日。あつという間に雪上遭難対策合宿
とスキーツアー(今年は3回行った。来年も行きたい)
が終わり、現在小屋に残っているのは、井上さん・海
野さん・板欽・下村・水田・石垣・古橋・武藤(功)・
横溝と僕(西田)の10人男ばかりである。男だけと
いうのは、ちょっと気味悪いが、男女混合のYWVに
とって、割と貴重な事かもしれない。今夜は酒が少な

いが、色々と話をしてみたい。Meetingを目的として
春小屋に来たと皮肉られたが、執行部会や部会や
Section Meeting なんとか、少々堅苦しい話し合い
ではなくて、話(会話)をツマミにして酒を飲み騒ぐ
のも、価値が十分ある。そんな個人的な、乗ってくれ
ばうち解ける話し合いが、YWVでは必要だ。特に上
級生&下級生、男子&女子という具合に。和して同せ
ず、のmoodを作る第一歩になる話し合いを大切にし
よう。

2年20th Ma.Nishida

長かったような小屋も、明日(18日)に帰ります。7
日の夜行で小屋に来て、8日は1日中寝て、9日ビン
ビン滑る。それから10,11,12と遭対合宿、13,14,15
とスキーツアー、16,17と滑ったり日和ったり。今、
**の疲れを覚えながら小屋日誌を書いている。しか
し、いつ来ても小屋はいいと思う。山の中、雪に埋も
れながら、YWVの独自の生活が営まれている。忙し
く働いている奴、マージャンしているヤツ、洋服の綻
びを直しているヤツ、先程から何回も書かれているが、
いろいろな人間の渦、それなのに違和感が無い。

今度、5月連休にまた来ます。その時は気楽に遊びに。

(2年20th K.M. 武藤功二)

一年で、1人だけ残っている横溝川にインタビュー。

一年生の女子で、一番良いと思う人は? 「むむ、顔は
イイのは山中でしょう、気だての良いのは渡部、体が
いいのは山室、椋代 どう誉めようか、でも いいん
じゃないかな。」

では、二年生の女子で一番イイと思う人は? 「これも
分かりますよ」、海野氏「総合得点だよ」「顔は白井」
「気だては増田」「まんじゅうもいいですね」それか
ら? 「あと四人居るんだよ」、西田氏「何にも出てこ
ない可哀想だよ」、海野氏「田本が居た?」続きは? 「何
で無理に誉めなければならぬの! ?」、出てこないか
ら、次に三年生の女子は?

「これねえ」、海野氏「三年の子は、いい子がいっぱい
居るじゃないか」「中村さんはいい人なんだ」「熊さ
んもいい人なんだ」、海野氏「具体的な事を言わなけれ
ばダメだよ」

(2年20th K.M. 武藤功二)

今後は貴公子 20thM.N.による記録 (裏へ)

実況放送:「北の湖の勝ち」NHK

→「まわしの取れた奴は居ないなあ」と海野氏、目つ
きを変えて一言漏らす。

→武藤、仮眠に入る。左方では石垣、井上さん、水田、
板欽が麻雀中。

(参加メンバー記録表:略、別記)

2年20th 西田

(現在位置図第2弾 3/17PM 7:00頃の現場状況)
執筆者—海野 (19th)/参考意見—井上(19th)

(図 省略)

こたつA<清水(井上にもたれかかる清水)・小泉(井上の肩もみ)・井上(まさぐっている二人) 山室・臼井(けなしあっている二人)・海野(寄り添う二人) 田本>

こたつB<西田(麻雀優勝)・下村・功二・石垣>
Kitchen<古橋(オカマ掘っている)>
階段下<水田・山中(舐め合っている二人)>
Toilet<横溝(イボヂの治療をしている)>
外<板欽(怖くて戸口で立ちションをしている)・増田(板欽を覗いている)>

3年 19th 海野

(YWV論) 3/17 (Fri.) 10:37 PM 20th M.N.

今、1人でコタツに入っている。みんな2階で眠る準備をしている。明日、小屋に残るのは石垣、海野さん、西田の3人の予定。清酒”妙高山”をコップで飲みながら、様々なことが頭に浮かぶ。夏合宿のこと、追悼会のこと、小屋周辺 W.のこと、1年導入のこと、etc etc etc、といったYWVの事の他にも、もっと個人的な事が頭に浮かぶ。それはさておき、YWVの事は常に考えているし、考えねばならないし、考える事が出来る。追悼会では、YWVの歴史をしっかりと下級生に伝え、その流れと、今後のワンダラーの集まりとしてのYWVの方向性を知り、それが正しいものである事を認知させたい。全く勝手な(大学は個人的なものであり、サークルも、それを縛ることは出来ないという、宙に浮いた一般論はしまようじ。)考えや行動は、クラブにとって異端分子だ。全体のMeetingから縛られ、理解し合った一つのテーマ、議題を、皆で考えてゆくのがサークルであって、個人主義はダメだ。かと言って、集団主義ほど駄目なものはない。全体の流れに押し流されて、全く自分が、サークルの一部品に過ぎないという機械論は、僕の目指した”和して同せず”の”社会”の理想に反する。そんな、個人主義も集団主義も克服した、理想(not the impossible)主義を、僕は目指している。言いたい事を、率直に、素直に言う事が出来るのが、腐った現実社会に勝る大学時代のサークルの一つの意味であるし、我々若輩層は、そんな理想社会における経験を基礎にして、現在の社会にはびこる価値観を変換せねばならない。それが大学である。発想の転換こそ、大学時代の最も意味有る事項だ。”優”の数や、その他外面的なことは、腐敗した現実社会に、悪い意味で順応しているに過ぎず、若さが一寸も無い。YWVで僕は、何が真の価値かを少しでも見出したい。それは、労働でもなければ有用性でも無いはずだ。おそらくそれは、個人(人間)と社会

の関係の中でのみ見出される、自分の存在そのもの、つまり、実際の存在に他ならない。実際の存在は、将来の自分(例えば就職 etc)を捨象するが、それは、自分一人では見出すことが出来ないものであろう。人間は昔から、悩む生物である。自分の貧困さを覆い隠さんが為に、又それを如何にしてうまく社会の中でごまかすかを考えながら悩み、苦しむ、高度であるが、最も自然性から離れてしまう可能性を持つ生物である。現実を目を向ければ、社会は無視できない。如何に若さの発散といえど、社会への反逆、迷惑行為を為す者は許せない。そんな社会性を身につけた上で、学生は**制(成)の制度、systemに反抗するべきである。その事を知らぬ若者は、余りに自分を知らなさすぎる。そんな意味でYWVは、自分を知ると同時に、社会を見る事が出来るサークルである。勿論その人の”ヤル気””パトス”に、全てがかかっているが。だから、”ヤル気”の無い人間がYWVに居るとすれば、僕は無視する。そんな奴は嫌いだ。

2年 20th 西田

昭和 53年 3月 20日(月)

昨日、火打に行くという姿勢で小屋を出て、どういふ訳か三田原の中腹で幕営。吹雪の一夜を過ごし、快晴の今日、三田原をピストンして小屋に戻ってきた。

年寄り(相対的に)の二人が、まあ、のんびりと行けるのは三田原ぐらいかもしれないと思っている。

小屋に今晚も泊まるつもりで居たけど、夜行で帰る事にする。勤め人になると、週に一度位、体を動かすのが精神のバランスにも良いようで、このところ元気な日々を送っている。

(以上 近況報告) OB15期 Sho.Ushikubo

昭和 53年 4月 29日(土)

入小屋<4年 18期 渡部・友人佐藤>

妙高6号にて入小屋、友人1名の計2名。天気は雨で思わずタクシーで来た。

2時(P.M.)過ぎにちょっと晴れたので小屋周辺を散策した。今年は雪が非常に多くって、未だ一面の雪田というムードである。昨年の連休は、蕨などを摘んだものだが…。誰か来ていることを期待したが、やはり誰も居ない。静かなり。

OB前18期 ワタベ

昭和 53年 4月 30日(日)

出小屋<OB18期 渡部・友人>

昨日の天気がウソみたいに日本晴れ。今日帰るのが勿体ない気持だ。昨夜は二人で盛大なるコンパを開いた。

今年も新入部員がここに来るだろうか。 A.M.

8:00 OB18th ワタベ (前)

追伸 小屋に鍵がかかっておらず、鍵自体、何処にあるのか判りません。(せっかく岡田さんから鍵を借りてきたのに)

OB18th 渡部

左藤

初めての山小屋体験で、小屋での生活様式を慣れないままに経験して勉強になった。小屋自体は外観上「おおりっぱ」という感じであったが、中に入って、閑散として、余りの綺麗さにびっくりしました。更に屁を何発かしたので、一層雰囲気も良くなったように思います。

さらにワタベより

大島さんのピッケルも、そろそろサビが浮いてきている様ですので、磨いてあげてください。

そろそろ小屋を出ます。又、使わせて貰います。サヨウナラ。イソオ、白川の誘惑を振り切って

OB18th 渡部

昭和 53 年 5 月 2 日(火)

入小屋<4年19期 磯尾典男・石井啓介・白川正・中島輝夫・富田博之・南>

磯尾、石井、白川、中島入小屋。

今日上高地で徳繁の追悼をして、途中土砂崩れで2時間も林道で立ち往生。それにもめげず、啓介様は独りで運転し続けてくれました。延べ十一時間労働、ほんとにほんとにご苦労様でした。頭が下がります。

今日に昼食はワングルとして信じられない、郊外レストランで華麗な食事して、そのメニュー、アメリカンハンバーグステーキ、+ライスセット (730円)、グラタンミックスフライ (980円)、和風焼き肉(牛肉) 定食 (850円)、デザートはアフターコーヒー、バニラアイス、グラスワイン。磯尾は恥も外聞もなく、レストランにて腐ったおにぎりを持ち込んだのです。

五月の小屋は初めてやって来ました。今年は雪は多くて、雪やコンコンでした。

46年型トヨタセリカ 1600GT (イラスト省略)

Topics

- ・今日の流行言葉「ガセネタ」
- ・ビール的一种「ALE」の意味をどなたか調べてください。
- ・4年生から3年女子へ

- ・Sさんよ、貴女はベールのかかった少女だ。
- ・Uさんよ、もっとロマンチスト振りに磨きをかけなさい。
- ・Mさんよ、君は本当にいい人間です。お嫁さんにしたい。
- ・Kさんよ、30cmの身長差をものともせず、がんばりなさい。
- ・E、Tさんよ、4年♂のKより、卒業までにはご馳走します。
- ・A、Tさんよ、貴女は出来た人ですね。
- ・4年生から3年男子へ
- ・N、Oへ、上記のKさんと同じ。
- ・H、Iへ、もっと口数を少なくしろ。
- ・A、Simoへ、もっと煙草を減らせ、スケベ、スケベ、スケベを慎め。
- ・E、Sakuへ、おっとりとした優しさをいつまでも、その優しさを彼女にも。
- ・KIとSTへ、いつまでも一緒に二人で一つ、その名はまさに「〇ノ〇マ」コンビ。
- ・MNへ、調子の良さを早くやめろ!
- ・YMへ、君は癖のない、真面目なイイ奴だ。
- ・KMへ、運転をもっと慎重に。
- ・Aへ、時間をしっかり守れ、言動一致を望む!
- ・TKへ、もっと前面に出て頑張れ!
- ・TOへ、もっと聞き手が聞き取りやすい喋り方をしろ。
- ・TFへ、言動不一致を無くせ、
- ・TMへ、その純粋さをいつまでも。

4年19th 石井

昭和 53 年 5 月 3 日(水)

入小屋<1年生 22期 西田博司・寺島一希・成島和仁・酒井俊一・浅沼芳弘・津江真行・佐藤晶子・渡辺清子/3年 20期 水田徹・安武和俊・石垣秀敏・旧武藤>

入小屋<3年 20期 武藤/2年 21期 白木政隆/1年生 22期 森真利子・成田裕子>

PM 4:16 昨夜横浜を出発して、今日の朝 6:00 頃入小屋しました。(西田、安武、石垣、旧武藤、寺島<1>)、成島、さかい、浅沼、津江、水田<3>)、左藤、渡部) 今、みんな何処かへ遊びに行っているようで、夜の運転の疲れか、(功二も石垣も運転した)午前中から眠ってしまったら、起きたらもう4時で、びっくりしてまです。今日は妙高本峰まで綺麗に見えて、良い天気。明日は何処かへ遊びに行こう。

1人で小屋に居ても、何もする事がなくて、ノートを書いたり、ギターを弾いたり、本を見たりする位しか

一年の女の子特集（四年約三名より愛を込めて）
佐藤 A「高校生みたい」、B「でも一見美人風」、C「割と知的な感じはするわな」（A.B 頷く）、A「もう少し喋った方がいいんじゃない」、B「でも慣れればそんな事無いんじゃない」（ナツク）、A「しっかりしている風に装うのがうまいね」（B は黙々とヌード写真を見る）、D「可愛い顔に太い眉、よく働く二葉コンビ」森真利子（時の人） A「可愛いね（←取り消し）髪の毛きれいね。でもそれだけじゃない」、B「…（無言）…まあね」、C「これ以上は可哀想だから言わない」、D「今日帰るとき、車にヨッパラッタみたい。昨日に続きよくヨウン！」

成田山 A「かわいいね、すごく。でも中身知らない」と、B「わかんねえな」、C「すごく面白そう、本当は」、D「明るくて楽しいネ！2つの皿からピザ食べて、明日は子供の日」

渡辺 A「いちばん評価が高いと思う」、C「割ときつそう。でも素直みたい」、B「いい子だなあ」という気はするよ」、D「スキーを熱心にやってたネ。ガンバッテ」

対談者 Y.H.T.→+出遅れたイソオ8元主将 19th)

筆責 4年 19th T. 富田

8:00am

第一部 つれづれなるままに 日ぐらしゼミ
連休の山小屋も今日で最後。今晚も酒を飲んでのコンパでしようが、それよりも何よりも飯を食いたい。未だ夕食を食べてないのです。今年の一年生は例年になく働き者が多いようでガッツガッツで夕食を作っています。三年生は上級生の意識が大というか、タイマンというか、コタツで生産性のない話をしている模様です。全く 20 期というのはガッツとタイマンの塊の様なものです。

第二部

YWVのモットー「ガッツ」&「ドキョー」。

「ガッツ」について

何事も気力だけで勝負しようとし、これが全てと頑張ること

「ドキョー」について

「はじ」と (断)

4年 19th 磯尾

昭和 53 年 5 月 5 日(金)

8:40

今朝も四時に寝た。毎日、顔は違うが、朝まで楽しい酒を飲んだ。若干変わらないのは石垣と僕。今、酒の匂いを消すために歯を磨いたところだ。みんな小屋を出るので、帰り支度に忙しい。どうやら上級生らしく

なった三年と、ニューフェイスの一年、2年は白木だけ。よく働いている。水田のアホが掃除してる。けっこう山小屋委員長らしくなったねー。字も文も、酔ってるのかナ。みんな写真でも撮って帰ろう。あ、O Bがどっかへ行っているみたい。居ないな。いつものOB、本多さん、萩生田さん、牛窪さん（漢字面倒くさいから省きます）後始末は心配無いし、そろそろ行こうかな。

(4年 19th イソオ磯尾)

(9:15)

睡眠時間が、小屋に来てどっと少ない。大抵、酒飲んで夜遅くまで起きているせいだと思う。昨晚、一年にいろんな事を話した。一年は未だクラブの事はよく分からないみたいだが、皆一生懸命にやろうとしている。そんな姿がとっても微笑ましく思う。小屋も今度で四回目だが、やはり ここに来ると落ち着く。今日も天気が良い。そして今日、小屋を降りて行く。また夏に来るまでさらばじゃ！

2年 21st 白木

9:30

11:10 発のバスに乗るべく、間もなく小屋を出発します。今、小屋にいるのは僕、安武、白木、浅沼、成島、津江、酒井、寺島、成田、佐藤、渡辺です。

春の暖かい陽差しに、冬の様相から、だんだん変化してきた。沢の流れが弱まってくると本格的な夏一笹ヶ峰の緑一がやってくる。

五月連休の小屋一終章一

- ・水田：一年生は、特に一年生の女子は、楽しみにしていた小屋の掃除をみんな取ってしまうのです、意地悪ね。
- ・安武：一年は皆素直に伸び伸び妙高の高原で遊ぶ。笹ヶ峰牧場での野球は楽しかったし、苗名滝は迫力あった。レンタサイクルで池ノ平駅まで行ったが、帰りはかったるくて死んだ。もう自転車は乗らない。
- ・白木：去る者を追うのは儂い。さすれば我現人を愛さん。
- ・成島：昨日、苗名滝を見た。午前中見たときは荘厳としてすごい迫力だった。夕方もう一度見たときは「ずで、コワイ気がしてよ、ビビッタズラ！」。今年の夏は、野尻湖の発掘でもしよう一と。
- ・津江：小屋はやっぱ山小屋だった。大変大変気に入った。これから我々1年も頑張っ、この小屋を良くしていきたい。出来ればドラム缶風呂を作って、ちょびっと清潔になりたいっす。生まれて初めてスキー、何故か顔の筋肉を使い、顔面神経痛気味だ。
- ・酒井：風呂と西洋便所を小屋に是非付けたい。
- ・浅沼：2階がとても広くて大勢泊まれそう。
- ・寺島：面白かったです。スキーと麻雀とお酒がうま

くなりました。

- ・渡辺：色々な事が経験できて、とても楽しく過ごせました。印象的なのは、パンツをロールで拭くことでした。
- ・成田：生まれて初めてスキーをしました。最後に転んだのがすごくスリルがあって良い気持でした。スキーが出来た反面、木々は寒くて、芽も未だ固く、草や花もまだまだ芽吹いていませんでした。今度は花がいっぱい咲いた時に！（追伸）星がきれいでした。私は一生懸命、首が痛くなるまで待ったのに、流れ星が見えませんでした。
- ・佐藤：小屋は素敵だけど、もっとソージしたい。ご飯が炊けなくて悪かった。面白かった、楽しかった、もっと居たい。

3年 20th 水田

昭和 53年 7月 30日(日)

現役のバカ。もっときれいにしとけ。年寄り連中に掃除させるとは何事ぞ。食器はきちんと洗っておくこと！要らない物という者とははっきりさせ、処分すること！けど、階段は立派でびっくりした。井戸の蓋も何とかせよ！

追伸 テーブルクロスは汚いので捨てた。新調してください。

1 3号完了

以下 14号掲載のところ別号に書かれていたもの
(14号紛失のためここに付記)

昭和 53年 8月 25日(金)

12:15am

本当は、新しい山小屋ノートがあるのだけれど、そこに書くとすぐ、皆に見られてしまいそうで嫌なので、大変申し訳ないとは思いつつ、ここの書いています。同行二人は既に、ネンネして、私一人、ポッカリと目が開いてしまったのです。寝っ転がっていると、窓に下弦の月が見えています。柱に掛かっているタオルからは、今日入った、松本の信州会館のお風呂の、備え付けの石鹸の香りがする。どこかでバタバタと蛾の暴れる音がする。

…今、お手洗いに行き帰ってきました。それでも未だ眠れない。つらいなア…。仕方ないから、思っていることを、ここに書こうと思うのです。ロウソクの長さ、およそ7cm、?cm位になれば眠たくなるのかな。逢う人毎に「惰性でクラブに残ってるよ！」と言っているが、実は内心、しゃくでたまらない。もっと良い言葉はないかなあ。いや、「貴方が居なければ困ります」と言う下級生の言葉に、つつい引かされて・・・なんていうのではなくて、確固とした「コレコレシカジカ」という言葉が欲しい。結局、4年間のうちで見つけられなかった言葉なんだけど…。

たった1週間弱の山行なのに、鼻がベロベロに剥けてしまった。無理矢理剥いてしまったので、ヒリヒリして困ります。でも、これも最後の日焼けかな？
ウー、まだ眠れない。時計が一つ、ボン…

4年 19th 中村真弓？

8/25 AM12:45

未だ、眠れないのよね。困ったな。蛾さんもお休みしたようです。コヤノートって、ワングルに関する事を書かなければいけない規則なんて無いけど、何となく、そんな雰囲気。あつ、支離滅裂！

■サークル活動 || ワンダーフォーゲル部

■趣味 || 山歩き、編み物

■卒業論文題目 || ○○○の山に○○の考案

←白々しい身上調書なのだ。書いててバカらしくなったけど、他に書くこと無いから※書いた。(※何となく、このパターンが私の生活かしら。)

でも、採用一次試験受かったよ。私が受かるんだから、F(笛木?)さんも受かってるだろーな、小屋へ来たら二人でお祝いしよう。でも、鼻の皮の剥けた女の子は、面接で落ちるかもしれないわね。

少し寒くなってきた。時計の音と寝息の音のみ…

高一の時の詩

あなたが山男でありますように…

白馬へつれて行って下さい。八ヶ岳でもいいのです。

二人で、黙って、空を見つめていたいです…

いい加減に寝よう。ロウソク 今、4cm。フツ。

4年 19th 中村真弓？